

# オミクロン株を含む感染拡大に備えた宮城県の検査・医療提供体制等

資料3-1①

## (1) 検査体制

- 現在の検査体制（県保健環境センター（240件/日）、県医師会健康センター（40件/日）、民間検査機関（2,150件/日））に加え

**1/1からPCR検査を無料で実施（1/13現在：25箇所）**（検査回数：13万回 検査事業所数：71箇所 ※いずれも見込み）

## (2) 医療提供体制

- 病床：今夏のピーク時の入院者数である303人の約1.7倍となる**511床**を確保
- オミクロン株陽性者のうち、重症化リスクのある者のみ入院とし、無症状や軽症者は、原則、宿泊療養（1/7から運用見直し）
- 宿泊療養施設：現在1,250室をスタッフとともに確保。**最大時2,600室**を確保予定
- 濃厚接触者は、原則、自宅待機（1/7から運用見直し）



## (3) ワクチンの追加（3回目）接種

- 東北大学ワクチン接種センターを12月20日から再開。県内における新型コロナワクチンの追加接種を推進
- 1/4から接種対象者に、**2回目接種日から6か月以上経過した65歳以上の方を追加**



## (4) 治療薬

- 経口薬：県内24入院受入協力医療機関に在庫確保を要請し、宿泊療養施設で経口薬治療の体制構築  
休日や夜間を含め、自宅やホテルに経口薬を配布可能な体制を整備済
- 中和抗体薬：県内24入院受入協力医療機関及び宿泊療養施設において、オミクロン株にも有効な  
中和抗体薬（ゼビュディ）治療の体制構築